

個性際立つ 豪華絢爛山笠14基！ 掛け声合わせ心一つに

待ちわびて迎えた今年の秋は、老いも若きも男も女も独特の高揚感に包まれていた。10月、2週にわたって行われた金田、神崎、赤池、3つの祭り。人々の身も心も熱くさせたこの一大イベントを、今、写真とともに振り返る。



沿道に子どもの泣き声が響く。10月9日、飯土井神社を出発した御輿行列の先頭は赤鬼と青鬼。泣く子は強く育つといわれ、鬼が子どもの頭を竹の棒で軽く小突くのが恒例となっている。こうして地域の子どもの厄払いをしながら、御旅所までを下った。神崎地区での山笠の奉納は昭和35年に「神崎」が始まり、その後「二」「三」「四」が加わった。以来2年に一度、必ず4基がそろい統制のとれた祭りが催されている。今年も神崎という広い範囲で、地域が一つになった貴重な2日間だった。

伝統の舞巖かに

▶ 神崎飯土井神社神幸祭【山笠4基】

10月
9日・10日



1. 夜には雰囲気を変えた4基の山笠が、練り回しを披露した。2. 御旅所では今年、4人の幼い巫女が舞を奉納。3. 強く、元気に育つことを願って。4. 夕日を浴び美しく輝く山笠。

photo report yamagasa 2010 山笠



地域待望の秋祭り

▶ 赤池統一秋祭り【山笠3基】

10月
9日・10日



1.2. 九区の有志による獅子舞でスタートした初日の夜の山笠競演会。3.4. 翌日は中央公民館から赤池駅まで恒例の共同運行。子どもから大人までが、心一つに、地域を練り歩いた。



待ちに待った2年に一度の「赤池統一秋祭り」。以前は各地域で行われていた祭りを35年前に統一開催するようになり、この名称がつけられた。当時は十数基が並んでいた山笠も、人手不足などにより減少。今年は「生力」「九区」「赤池山笠会」の3基が参加した。山笠の数は減ったが、人々の熱気が冷めることはない。初日は夜の競演会、翌日は共同運行で山笠を惜しみなく披露。囃子の雅な音色と勇壮な掛け声は2日間ほぼ途絶えることなく響き渡り、多くの観衆を魅了した。

金色の揃い踏み

▶ 金田稲荷神社神幸祭【山笠6基】
▶ 金田・神崎秋祭りイベント【山笠8基】

10月
16日・17日



1. 約1200年の歴史ある稲荷神社の祭礼は、本来の姿を失うことなく伝統行事を大切に受け継いでいる。2. 地域の結束力がより高まる各地区の運行。3. 今年は一夜限りの山笠競演会に8基の山笠が参加。4.5.6. それぞれが鮮やかな演出で見る人を魅了した。7. 御旅所から金田駅前までを8基の山笠が練り歩いた「山見せ巡行」。

各地区でイメージカラーに合わせた旗が、秋風にひるがえる。10月16日、稲荷神社神幸祭初日。この日のために里帰りしたという若者も多く、重さ約5トンの山笠は、引き手の掛け声と共に勢いよく山小屋を發った。武者人形が身を乗り出し、金色に輝く山笠が太陽の下に姿を現す。一年で一番にぎやかな2日間の始まりだ。今年初の試みで話題となったのが、初日の夜に行われた「山見せ巡行」。激しく回転する競演会とは違い、子どもやお年寄りも間近で電飾まばゆい山笠を見上げ、歓声をあげた。こうして多くの人が、祭りの活況を色あせない感動として心に焼き付けていった。

